



さいたま市立大宮南中学校

わかとり

学校教育目標

輝く個性 夢きらり

学校だより 1月号

令和8年1月8日(木)発行

〒330-0834

さいたま市大宮区天沼町2-362

TEL 641-1142 FAX 641-5356

新しい年を迎えて

校長 亀井 隆司

年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げますとともに、日頃の本校教育へのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。本年も変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、皆様はこの年末年始をどのように過ごされたでしょうか。私は保健体育の教員であったこともあり、年末年始に行われるそれぞれの年代で行われるスポーツ観戦が毎年の楽しみです。高校生のバスケットボールウインターカップ、サッカー選手権大会、ラグビー大会、春高バレー、また大学ラグビーやニューイヤーマーチなどなど…。中でも1月2日～3日に行われる箱根駅伝にはいつも様々な感動をもらっています。

駅伝は言わずと知れたチームスポーツで、特にこの箱根駅伝では大学の意地とプライドをかけて、この日のために日々苦しい練習に耐えながら力を付けたチーム(大学)同士が競い合います。走っている選手たちのスピードや、仲間たちのために1秒を削り出すため苦しい中で必死に走っている姿を見ると、毎年胸が熱くなります。また、それと同時に私が大学生の頃出会った陸上部の友人のことを思い出します。

その友人は関西出身で長距離を専門にしていました。大学は箱根駅伝の常連校でしたので、当然彼も箱根駅伝に出場することを夢見て大学へ入学してきたことと思います。明るくて朗らかな性格の彼は友達も多く、私自身も彼のことを慕っていましたし、何よりも長距離を走ることが大の苦手であった私にとっては少し尊敬するような存在でもありました。そんな彼と何気ない話をしていた時のことが今でも忘れることができません。

「長距離を走っているとわき腹が痛くなることもあるじゃない。ああいうことは長距離を専門にしている人は無いの？」

「あるよ。俺はどっちかっていうと他の人に比べて頻繁にあるほうや。」

「そんな時はやっぱりスピードを緩めたりするわけ？」

「そのまま走るやろ！痛いとかは関係ない。スピード落としたらタイムが落ちるから。駅伝やったらチームの足を引っ張ることになるで。」

箱根駅伝を観るたび、私は学生時代のこの会話を思い出します。チームのために全力を尽くす、目標を達成するためには自分の痛みや苦労は一旦置いておく。そんな思いが彼の言葉から伝わってきたのです。彼自身は大学4年間の競技生活で一度も箱根駅伝に出場することはできませんでしたが、陰ながらチームを支え、チームの大きな力になっていたのではないかと思います。

新年を迎え、今年の新目標を立てた生徒の皆さんも多くいることでしょう。今ある夢や目標に向かって今年も頑張ろうとしている人もいると思います。しかし、夢や希望、目標をかなえようとするときには困難な壁にぶつかることもあり、歯を食いしばって努力を積み重ねることが必要になる時もあります。そんな粘り強さも兼ね備えた南中生となれるよう、よりよい1年を過ごしてもらいたいと願っております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。